



人的資本経営の強化

働き方改革

ニチレキグループでは業務効率を高めることによりワーク・ライフ・バランスの向上に努め、従業員が自らの事情に応じた多様で柔軟な働き方を選択できる体制づくりに取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、当期より新たな基幹システムを導入し、各種業務システムと連携させることにより、従来紙ベースで行っていた申請・決裁プロセスの電子化を進めるとともに、各現場では日報等の入力をモバイル端末から直接行える仕組みを構築しました。

労務管理については、オンライン勤怠システムにより管理者が従業員の出退勤、労働時間、残業時間、夜間・休日勤務の状況を日々正確に把握することで、必要に応じ業務割り振りの見直しや応援体制の整備を行い、特定の部署・個人に過度な業務負担が掛かることのないよう努めています。今後はさらに、定型業務におけるRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の活用や、製品物流のクラウド管理システムにおけるAI配車機能の精度向上等、業務の効率化と残業時間の削減を一層進めて行きます。また、休暇の取得に関しては、ゴールデンウィーク・夏季・年末年始における長期休暇の他、家族のイベントなどに合わせた有給休暇の取得なども奨励し、従業員の心身のリフレッシュに努めています。

ニチレキグループでは引き続き、多様で柔軟な働き方をより一層推進し、従業員一人ひとりが能力を発揮し、成長し続けられる職場環境を目指していきます。

	2023年度実績(連結)	2024年度実績(連結)
1か月当たりの平均残業時間	18.6時間	16.7時間
年間平均残業時間	223.5時間	200.9時間
有給休暇取得率	77.8%	74.1%
有給休暇平均取得日数	13.8日	13.3日

中長期目標

項目	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
年間残業時間*1	640時間以下 89.9%	640時間以下 93.5%	640時間以下 97.3%	640時間以下 100%	360時間以下 100%	 
有給休暇年間取得日数*2	付与日数の5割以上 69.1%	付与日数の5割以上 80.0%	付与日数の5割以上 78.0%	付与日数の5割以上 100%	付与日数の9割以上 100%	

*1：グループ全従業員が対象

*2：年間付与日数10日以上従業員が対象

■ ダイバーシティ & インクルージョンの推進

中期経営計画『しなやか2025』では、環境変化に「しなやか」に対応し、組織レジリエンスの高い企業グループに成長していくことを目指しています。属性の異なる様々な人の意見を取り入れ多様性を認めることは、その要件の一つであると考えています。

そのためニチレキグループでは、国籍・世代・性別などの異なる多様な人材がそれぞれに能力を存分に発揮できる環境整備に努めています。多様な人材が異なる意見を出し合うことでこれまでにない発想を生み出し、新たな仕事の創造につなげ、常に事業環境の変化に適応できる企業を目指していきます。

例えば、外国人留学生をはじめとする海外人材の募集を継続的に行っており、研究開発や海外事業において活躍する人材は年々増加しています。国籍を超えた人員体制の充実化による新たなシナジー効果の発揮に期待しています。

一方、子育てに関する施策としては、従業員が安心して子育てができるよう、育児休業の取得を推奨しています。具体的には、男女の区別なく対象従業員一人ひとりに、育児休業制度の仕組みやフォロー体制を個別に説明することで、取得に対する不安を取り除いています。また、2025年度からの育児介護休業法の改正に合わせ、規程の改定を行いました。具体的には、子育てと仕事の両立をより推進していくことを目的に、育児短時間勤務、所定外労働時間の制限（残業免除）、子の看護等休暇、時間外労働・深夜業の制限などの対象を、改正法より長い「(子の)中学校就学の始期まで」に延長しました。育児休業期間終了後も柔軟な働き方を実現するためのこうした制度の拡充に加え、各従業員の状況に応じてテレワークなども推奨し、子育てと業務を両立できる体制を整えています。

	2023年度実績(連結)	2024年度実績(連結)
女性技術者数(技術研究所)	5/47名 (10.6%)	4/46名 (8.7%)
女性従業員数	86/977名 (8.8%)	234/1,386名 ^{*3} (16.9%)
育児休業取得者数	10名 (男性6名、女性4名)	18名 (男性8名、女性10名)
育児休業取得後の職場復帰者数	5名 (復帰率100%)	9名 (復帰率100%)

*3：人事制度の改定による

なお、女性活躍推進法等に基づく多様性に関する3指標の2024年度データは、以下のとおりです。

■ 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率、および労働者の男女の賃金の差異

2024年度実績(単体)				
管理職に占める 女性労働者の割合 ^{*4}	男性労働者の 育児休業取得率 ^{*5}	労働者の男女の賃金の差異 ^{*3}		
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者
3.8%	75.0%	62.63%	62.63%	-

*4：「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出

*5：「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出

■ 賃金制度の改定

資源高や円安を背景とする消費者物価の上昇への対応、従業員のモチベーション向上、および優秀な人材の獲得を目的に、ニチレキグループでは2024年4月より基本給の大幅なベースアップを実施しました。

また、物価高への対応および健康増進を目的とする食事手当の支給に加え、2024年問題への対応および優秀な人材の獲得を目的として、職種や技能に応じた手当の支給を全国一律で開始するなど、各種手当の充実化も図りました。

ニチレキグループでは、今後も従業員が安心して働き続けることのできる環境の整備に取り組んでいきます。

■ 人材育成に向けた教育研修制度

ニチレキグループでは、従業員が個々の能力を発揮できるように、入社以降のキャリアの各段階における研修に力を入れています。

若手社員に対しては、入社から4年目まで切れ目なく毎年研修を実施しています（新入社員研修→1年研修→職種別研修→3年研修）。会社の事業に対する理解を深め、これからのキャリアを展望するきっかけを提供するとともに、同期社員との絆を深めつつ互いに切磋琢磨する機会にもなっています。

一方で管理職に対しては、将来の経営層の育成を目的として、上級管理者研修、経営管理者研修を実施しています。グループ討議や実習を通して、戦略策定スキルや組織変革のポイントを学び考える場となっています。

さらに、自身の経験職種の知識に止まらず、新たな領域の知識も身に付けることができるよう、階層別のみならず職種別の研修も行っているほか、公的資格の取得促進の支援として、社内外の各種講習会への積極的な参加も推奨しています。

■ グループ教育研修制度



新入社員研修



3年研修



上級管理者研修



職種別研修

■ こころと体の健康経営に向けた取り組み

従業員のメンタルヘルスの不調を未然に防ぎ、より働きやすく健康な職場を整備することを目的に、全従業員を対象としたストレスチェックを毎年実施しています。

ストレスチェックの結果の集計・分析から職場におけるストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげることで、従業員のストレスを軽減するよう努めています。

また、従業員の健康の増進のため、健康診断のみならず一定年齢に達した際の人間ドックの受診や、インフルエンザ予防接種についても実施しています。

人権に対する取り組み

■ 人権に関する方針

人権の尊重は、コンプライアンス経営の基本であることはもとより、全ての事業活動の根幹を成すものです。ニチレキグループでは、人権尊重に関する企業としての責任を明確化し、従業員に対する意識付けの強化を図るため、このほど「ニチレキグループ 人権方針」を策定しました。

ニチレキグループ 人権方針

ニチレキグループは、2043年の『創業100年将来ビジョン』として、『『道』創りを通して全てのステークホルダーの皆様へ安心を届ける』ことを掲げています。その実現のため、役員と従業員がビジネスプロセスにおいてステークホルダーの皆様（お客様、従業員、サプライヤ、株主・投資家、地域社会など）の人権に十分配慮して行動することで、企業として課せられた人権尊重の責任を確実に果たしてまいります。

そのために、世界人権宣言と国際人権規約（社会権規約・自由権規約）を含む「国際人権章典」や、ILO（国際労働機関）中核的労働基準を定めた「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」等、人権に関する国際規範を支持したうえで、以下の各項目の実践に取り組みます。

（１）差別の禁止

性別・年齢・国籍・人種・民族・思想・信条・宗教・社会的身分・性的指向・性自認・障がいの有無など、個人の属性の違いによる差別を禁止し、多様性を尊重する企業風土の醸成に努めます。

（２）ハラスメントの防止

言動や身体的行為など、相手を傷つける精神的・肉体的ハラスメント行為の一切を禁止し、個人が互いを尊重し合える快適な職場環境の形成に努めます。

（３）児童労働・強制労働の禁止

その形態を問わず、一切の児童労働や強制労働を禁止します。

（４）労働安全衛生の水準の向上

ニチレキグループ「安全衛生管理方針」に基づき、労働安全衛生に関する法令、規則、社内規程を遵守し、事故や労働災害等の撲滅に取り組み、安全で快適な職場環境の形成に努めます。

（５）労働時間と賃金の法令遵守

労働時間や賃金に関する法令を遵守しつつ、過度な残業の抑制や労働条件の向上を通じ、ワークライフバランスの向上に取り組みます。

（６）労働者の権利の尊重

従業員の団結権および団体交渉権を尊重し、従業員と経営層の良好な関係を構築します。

（７）地域社会との調和

事業活動を行う地域において、そこに暮らす人々の権利を尊重し、地域社会との調和に努めます。

ニチレキグループでは、平素より役員・従業員が関与する人権における負の影響を特定・評価するとともに、その防止・軽減に努めます。また、人権侵害を受けた従業員の通報窓口を設け、通報があった際には個人のプライバシーに配慮しながら迅速かつ的確に事案の解決を図れるようにするなど、人権侵害における救済と問題の是正、再発防止に関する体制を整備しています。

さらに、本方針を企業活動の根幹を成すものと位置づけ、全ての役員・従業員に対して人権尊重に関する教育・研修を適切に実施していきます。また、取引先の皆様をはじめ、サプライチェーン全体の関係者の皆様にも本方針をご理解いただき、人権尊重の取り組みを共に進められるよう、働きかけていきます。

人権尊重に関する取り組み状況については、今後、ウェブサイトや統合報告書等で適切に開示していきます。

本方針は、2025年7月24日のニチレキグループ取締役会の承認を得て制定しました。

2025年7月24日

ニチレキグループ代表 小幡 学

労働安全衛生に対する取り組み

労働安全衛生に関する方針と体制

ニチレキグループでは「安全衛生管理方針」のもと、事故や労働災害の撲滅、第三者災害の防止を目的に、労働安全衛生マネジメントシステムを「安全衛生管理ルールブック」という形でマニュアルにまとめて体系化し、日々の業務におけるルールの遵守を徹底しています。

また、労働安全衛生に関する取り組みを一層推進するため、安全品質環境部を中心に、ニチレキ各支店にも独立した部署として安全衛生課を設けています。

安全衛生管理方針

労働安全衛生マネジメントシステムを確実に運用し、災害、事故の撲滅を図り、安全で快適な職場環境を形成します。

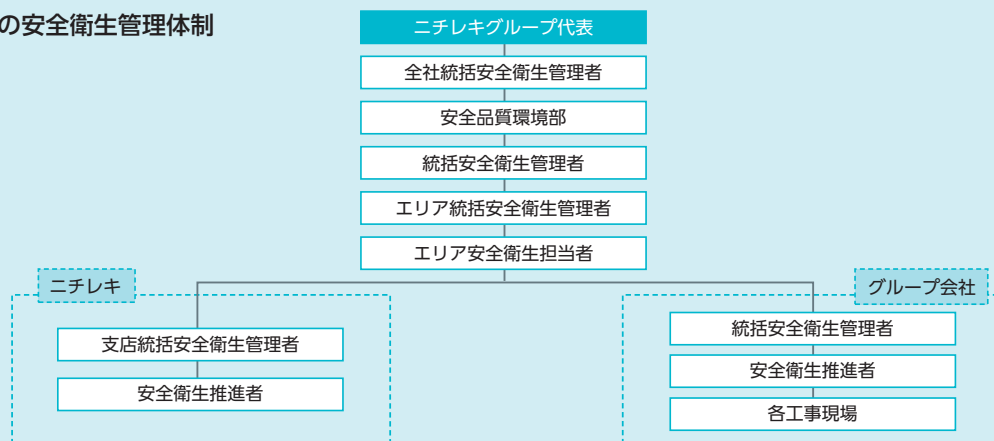
2025年4月1日

ニチレキグループ代表 小幡 学

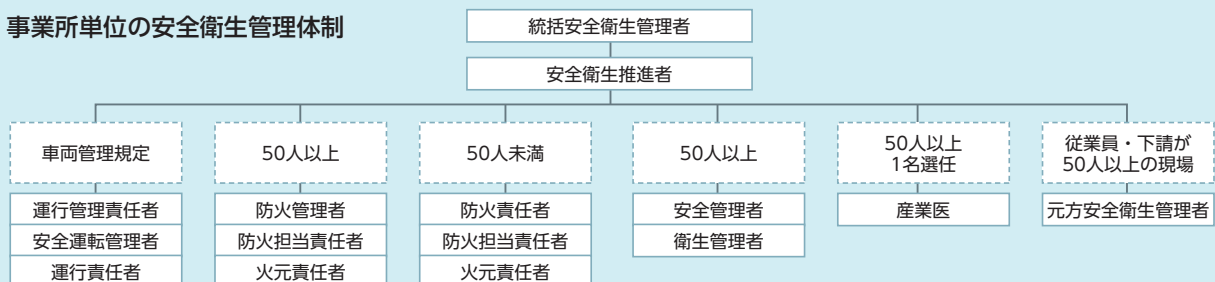
安全衛生管理の取り組み

1. 労働安全衛生に関する法令、規則、社内規程を遵守する
2. 安全衛生管理ルールブックの実効性を高め、安全行動を定着させる
3. 安全衛生パトロールを強化し、安全に対する意識や行動を高める
4. リスクアセスメントを取り入れたK Y活動を強化し、予防安全に努める
5. 指差呼称、輪留めを徹底し、ヒューマンエラーを防止する
6. 5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進する

グループの安全衛生管理体制



事業所単位の安全衛生管理体制



■ 当期の施策

ニチレキグループでは、従業員と協力会社が一丸となって事故の撲滅に取り組んでいます。当期の具体的な取り組みは、以下に示すとおりです。

【機材関連事故・交通事故の撲滅】

全国の事業所へ向けて、年度当初に安全衛生管理ルールブックに関する説明会を実施しました。特に留意すべき改訂箇所や、当期の重点取り組み事項について周知を図りました。

また、ウェアラブルカメラによる現場作業状況のチェックを随時行い、服装や指差呼称実施の好事例を「ウェアラブルカメラだより」として全国に発信・紹介し、正しい現場作業を再確認するとともに、安全意識のさらなる向上を図りました。

【公衆損害の撲滅】

過去の公衆損害事故を分析すると、手順書に沿わない作業方法による公衆損害事故が見られました。そうした事故の撲滅に向けて安全パトロールを随時実施し、改めて手順書の遵守の周知徹底を図りました。

【安全啓蒙活動の強化】

厚生労働省や中央労働災害防止協会等の主唱による、年4回の労働安全衛生に関する啓蒙期間に合わせて、安全品質環境部が安全パトロールを実施しました。当期はニチレキ株式会社の25事業所と、その他グループ会社のうち17社を対象に、改善指導を行いました。また、安全品質環境部から6拠点の安全衛生大会へ参加し、講話等による安全啓蒙活動を実施しました。

【安全衛生管理水準の向上】

Webによる安全パトロールでは「その場で指摘、その場で改善」を意識して、手順書に沿わない作業が確認された際はすぐさま直接現場に連絡し、作業方法の改善を指示して安全意識の向上を図りました。

また、重機死角に起因する事故の発生を受けて、全国一斉の訓練を緊急に実施し、類似事故の再発防止を図りました。

その他の取り組みとして、2024年6月よりWeb配信型の安全映像教材を導入しました。全国どの拠点からでも様々な作業分類の映像教材をタイムリーに視聴できるようになり、安全活動の水準の向上につながりました。全国の各事業所における安全衛生大会や災害防止協議会などで有効に活用されています。

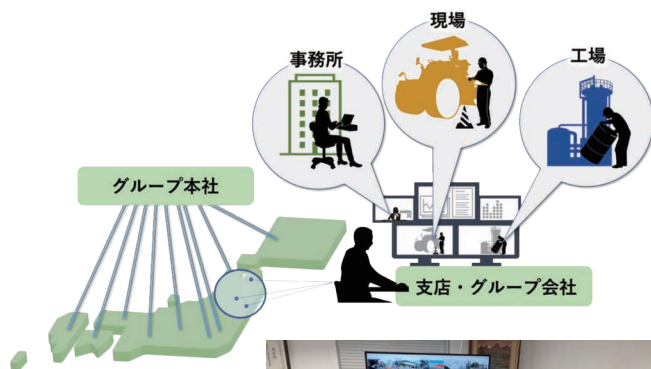
また、事故解決までにかかるコストを案件ごとに可視化・共有化することで、事故による損失コストを明確に把握し、事故防止に向けた意識の向上と取り組みの強化につなげる仕組みづくりを行いました。



現場における作業状況の確認



Webによるグループ安全衛生会議



ウェアラブルカメラによるWeb活用型安全パトロール

■ 事故件数の推移

以上の取り組みの効果により、事故件数の合計は前年から7件減の20件となりましたが、事務所から現場までの移動時の交通事故などは前年から増加する結果に終わりました。また、当期は機材の後退時作業に起因する事故が多く、これ以外にも取り組み次第で防げる事故は多いと考えられます。

■ 事故件数(件)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
公衆損害事故	15	13	15	10	3	9	3
機材関連事故	5	4	5	3	4	13	12
交通事故*1	0	2	5	5	3	0	2
労働災害*2	2	3	5	6	6	5	3
事故件数 計	22	22	30	24	16	27	20

*1：業務中の人身傷害に係る事故
*2：4日以上休業災害

■ 今後の改善施策

ニチレキグループでは以下に掲げる改善活動を継続的に行うことにより、安全意識の向上と事故の撲滅に一層注力していきます。

【機材関連事故・交通事故の撲滅】

改訂版安全衛生管理ルールブックに則り、手順の遵守や指差呼称といった基本事項を徹底するとともに、作業内容に即した正しい服装での作業実施など、安全ルールを基礎から漏れなく守るよう、従業員の意識付けをさらに強化します。

【後退時作業事故の撲滅】

後退作業に起因する事故の増加を受けて、車両駐車方法の改善や指差呼称の徹底に関する再教育を行い、同種事故の撲滅に努めます。

【安全啓蒙活動の強化】

「全国安全週間」「全国労働衛生週間」「建設業年末年始労働災害防止強調期間」「建設業年度末労働災害防止強調月間」等の各種安全啓蒙運動に参画するとともに、安全品質環境部による安全衛生パトロールを引き続き全国で実施し、安全の啓蒙に努めます。

【安全衛生管理水準の向上】

引き続き、ウェアラブルカメラを用いたWeb活用型安全パトロール、配信型映像教材の活用による安全教育などを徹底し、安全意識の向上と類似事故発生の抑制に努めます。

【熱中症対策の強化】

2024年6月からの安全衛生法改正に即した熱中症対策として、こまめな水分・塩分補給や空調服の着用など、従来から実施している取り組みに加えて、熱中警戒アラートバンド等のウェアラブルデバイスを活用した対策を試行し、従業員の作業環境の改善を図ります。また、安全衛生管理ルールブックにおける、熱中症発生時の措置や連絡体制に関する記載を見直しました。

サプライチェーン・マネジメントの強化

品質確保に向けた方針

ニチレキグループでは以下の品質方針のもと、ISO9001に準拠した取り組みとして、お客様のニーズに対応した製品および工法の創造・提供を絶えず追求しています。

品質方針

「種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる」種播き精神のもと、「道」創りを通して社会に貢献するため、顧客満足と信頼が得られる製品・工法を常に創造・提供していきます。

2025年4月1日

ニチレキグループ代表 小幡 学

ISO9001に準拠した取り組み

1. 競争力のある製品・工法を提供し、顧客を創造する
2. 魅力のある製品・工法を開発し、顧客要望に応える
3. 顧客と市場にあった調査技術を開発し、活用する

ISO登録証（一般財団法人 日本科学技術連盟 ISO審査登録センター）



サプライヤエンゲージメント

ニチレキグループでは、中長期的に持続可能な企業グループへと成長していくため、サプライチェーンの安定的維持に向けてESGを重視した調達活動を実施しています。

原材料のアスファルトをはじめ製品の品質に影響する購買品については、購買先との新規取引時に、環境問題への取り組み状況、情報開示状況、供給資材の安全性情報、関連法規の遵守状況等、ESGの視点を踏まえた評価を必ず実施し、サプライヤへの認定・登録を行っています。さらに、既存のサプライヤについても少なくとも年に1回、最新状況に基づいた評価の更新を確実に実施しています。その結果、改善余地が抽出された場合は問題点を双方で共有のうえ、解決に向け協議しています。また、サプライヤとの信頼関係を深めるためのコミュニケーション活動も継続的に展開しています。

加えて、サプライチェーン全体の共存共栄や望ましい取引慣行の遵守などに向けた取り組みを、「パートナーシップ構築宣言」として公表し、サプライヤとの良好な関係のさらなる発展を推進しています。



取り組みに対する外部からの評価として、当社は2024年度のCDPサプライヤエンゲージメント評価（SEA）で、最高評価のサプライヤエンゲージメント・リーダーに選定されました。SEAはCDP質問書（気候変動セクション）▶P.28への回答内容に基づき、各企業をCO₂排出量削減目標、バリューチェーン・エンゲージメント、スコープ3CO₂排出量、リスクマネジメント、ガバナンスの観点から評価するものです。



中長期目標

項目	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
購買先評価実施率	100%	100%	100%	100%	100%	12 つくば未来 17 パートナリプを 目標を達成しよう

表彰工事

東京都港湾局 優良工事表彰・技術者表彰

工事名：令和4年度大井縦貫線(コンテナ車レーン)舗装補修工事
工 期：2023年4月3日～10月3日

東京都品川区八潮二丁目地内における舗装補修工事において、日瀝道路株式会社が東京都港湾局長より優良工事表彰・技術者表彰を受賞しました。

本工事は、大井縦貫線／都道316号線のコンテナ車レーンで、関係先である東京港埠頭株式会社や大井ふ頭バス関係者等に対して、円滑な待機車の誘導について調整を行いました。また、舗装材料を半たわみ性ポリマー改質H型から、耐久性、施工性、リサイクル性、維持管理のしやすさ、価格の面において優れた重荷重用・高塑性変形抵抗性ポリマー改質アスファルト「コンテナファルトS」に変更しました。さらに、路面切削工においてICT施工技術を活用するなど省力化を図りました。これらの取り組みが評価され、優良工事表彰・技術者表彰を受賞することとなりました。



優良工事表彰状



技術者表彰状



施工後

東京都第六建設事務所 優良工事表彰

工事名：路面補修工事(4六の11・遮熱性舗装)
工 期：2023年4月3日～11月8日

東京都台東区西浅草三丁目地内から同区浅草二丁目地内外1箇所における路面補修工事において、日瀝道路株式会社が東京都第六建設事務所長より優良工事表彰を受賞しました。

本工事は、特例都道蔵前三ノ輪線(第462号)国際通り外1路線を、主に切削オーバーレイ工法および遮熱性舗装工法で整備する工事です。当該現場は浅草寺や雷門等に近接し観光客が非常に多く、沿道には商店街や宿泊施設が数多くあることから、地域の皆様に工事予定を十分に周知し、工事の円滑な進捗に努めました。また、施工中においては測量時にICT施工を活用したことに加え、東京都が推進するHTTゼロエミッションアドバンス工事*を実行し、温室効果ガスの排出量削減を図りました。交通量の多い横断歩道では外国人歩行者にも伝わりやすいように多言語表示・音声案内を行い、工事中の事故防止に努めました。これらの取り組みが評価され、優良工事表彰を受賞することとなりました。



表彰状



施工後

HTTゼロエミッションアドバンス工事 実施内容

内容	CO ₂ 削減実績量
充電器内蔵ソーラーパネルを用いた仮設表示板(サインライト)の使用	1,040kg-CO ₂
リチウムイオンバッテリーを電源としたLEDランプによる投光機の使用	166kg-CO ₂
燃費低減システムを搭載したハイブリッドLEDライトの使用	163kg-CO ₂

* 2030年までに温室効果ガス排出量を50%削減(2000年比)する「カーボンハーフ」の実現と、中長期的なエネルギーの安定確保の観点から、東京都が推進する低炭素化および「HTT」(電力を減らす(H)・創る(T)・蓄める(T))に取り組む工事。

表彰技術

第8回インフラメンテナンス大賞 防衛大臣賞(メンテナンスを支える活動部門)

技術名：耐流動性を高めた舗装技術(エプロンの補修事例)

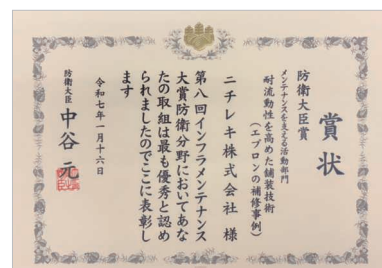
第8回インフラメンテナンス大賞において、当社の「耐流動性を高めた舗装技術(エプロンの補修事例)」が防衛大臣賞(メンテナンスを支える活動部門)を受賞いたしました。

インフラメンテナンス大賞は、国土交通省、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省が所管する施設について、優れた取り組みや技術開発に対して表彰するものです。

自衛隊の航空機には、大型車両(トラック車両)の約3倍の接地圧を有する機種があり、このような航空機が緩速走行するとアスファルト舗装の流動(わだち掘れ)が顕著に現れます。本取り組みでは、耐流動性に優れた特殊改質アスファルトを開発し、それを用いたアスファルト混合物を自衛隊施設のエプロン部に適用しました。

本取り組みで用いた特殊改質アスファルトは、①従来品(改質Ⅱ型、Ⅲ型)の2倍以上の耐流動性、②改質Ⅱ型と同等のひび割れ抵抗性、③施工方法が一般的な混合物と同様であること、という要求性能を満たしています。実際の現場においても、改質Ⅲ型に比べ10倍以上の耐流動性効果が検証され、長寿命化およびライフサイクルコストの低減に寄与することが確認されました。

また、施工性のみならず施工後の運用開始までの期間においてコンクリート舗装に比べ優位であり、飛行場以外でも港湾の荷捌き場、資材置き場等でも適用できること等、部隊運用への影響リスクの低減を求められる自衛隊施設においては非常に有用である点が評価されました。



表彰状

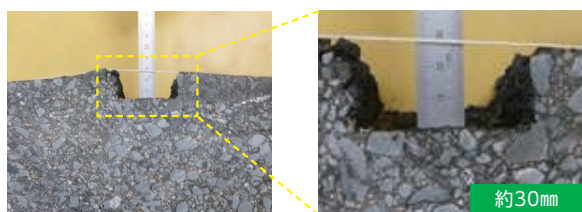


表彰式

高塑性変形抵抗性改質アスファルト混合物の室内試験結果(ホイールトラッキング試験)の一例

試験条件：①載荷接地圧：0.63MPa、②走行速度10.5回/mm、試験温度：70℃

改質Ⅱ型アスファルト混合物



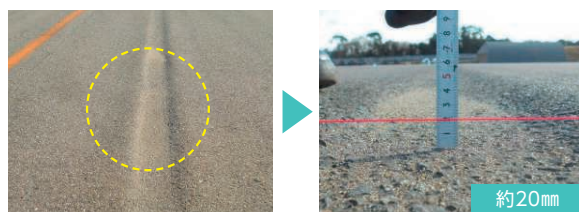
高塑性変形抵抗性改質アスファルト混合物



自衛隊施設(エプロン)での実施状況

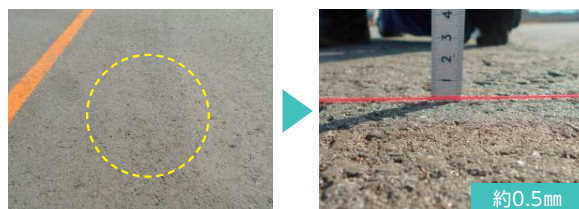
改質Ⅲ型アスファルト混合物

約4年(3夏)経過



高塑性変形抵抗性改質アスファルト混合物

約2年(2夏)経過



研究開発型企業としての取り組み

■ 新製品・工法開発

研究開発は、「調査・診断→設計・提案→製造・販売→施工・管理」のサイクルからなるニチレキグループのビジネスモデルの根幹であり、持続的成長の源泉です。

一方、社会情勢を鑑みると、地球規模での気候変動問題の解決が課題となる中、企業にも環境に配慮した持続可能な事業活動が要求されています。「2050年までにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量ネットゼロ」の長期目標の達成に向け、ニチレキグループでは常温で扱える従来型の製品・工法に加え、長寿命、リサイクル、中温化などの性能・機能をプラスし、さらなるCO₂排出量の削減など、より高いレベルで環境保全に貢献する「足すテナビリティ[®]」製品・工法の開発や改良を推進しています。

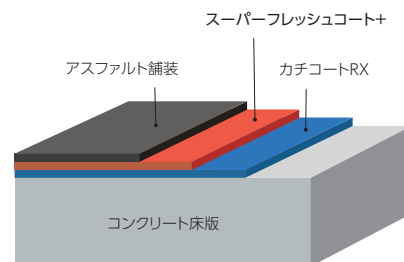
2024年度は以下に記す2件の環境配慮型製品を新たに上市しました。

【スーパーフレッシュコート+】

道路橋において舗装の下にあるコンクリート床版の疲労抵抗性は、橋面舗装から浸入する雨水の影響によって低下するため、防水層の果たす役割が重要となります。床版防水工法の一つであるアスファルト塗膜系防水工法は、施工能力の高さから多くの実績があります。しかし、一般的なアスファルト塗膜系防水材料は、基層混合物の下部に浸透することで防水層を形成する一方で、基層混合物の塑性変形抵抗性の低下を招いてしまいます。

その課題の解決策として当社が新たに開発した塗膜系防水材料が、「スーパーフレッシュコート+」です。本材料は基層混合物の塑性変形抵抗性の低下を抑制できることに加え、施工温度を従来より50℃低減できるため低炭素化に貢献でき、かつ、舗装施工前に付着防止砂を散布しなくとも、工事車両タイヤに付着しないという施工上のメリットをも有する、高性能な防水材料です。

施工断面の例

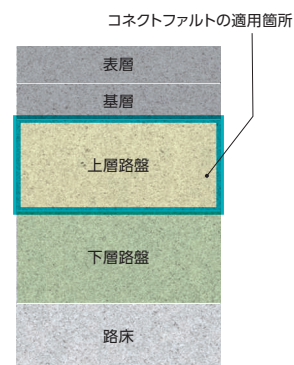


【コネクトファルト】

高速道路では、長期供用に伴い路盤の損傷が顕在化してきており、雨水の浸透による砂利化や疲労ひび割れによる損傷が明らかとなっています。しかし、上層路盤や下層路盤といった舗装の比較的深部にある層は、修繕に伴う費用や交通規制の制約などから、頻繁な補修が困難です。

そこで、東・中・西日本高速道路株式会社（NEXCO3会社）は、上層路盤が本来受け持つべき役割の確保による長寿命化を目指し、高弾性上層路盤用混合物（HiMA）を適用しています。当社はHiMAに用いる改質アスファルトとして、剛性、耐水性、疲労抵抗性、および塑性変形抵抗性に優れるコネクトファルトを開発しました。このアスファルトを用いることで舗装が長寿命化するため、補修頻度の低減によるCO₂排出量の削減につながります。

基本的な舗装構成



■ 中長期目標

項目	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
新製品・工法開発 (改良含む) 上市件数*	4件	6件	8件	10件以上	40件以上	

* 2021年度以降に上市された新製品・工法(改良含む)の累計件数

■ 外部パートナーとの協力

【高耐久超低騒音舗装】

首都高速道路株式会社と当社が共同で開発した「高耐久超低騒音舗装」（副題：損傷対策型小粒径ポーラスアスファルト混合物）が、第26回国土技術開発賞の「優秀賞」を受賞しました。

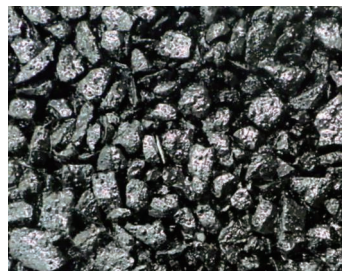
「高耐久超低騒音舗装（名称：エコセーフ舗装）」は、小粒径ポーラスアスファルト混合物(5)を表層に採用した舗装です。この混合物には、骨材飛散抵抗性を大幅に改善することを目的に当社が開発した高耐久バイндаが使われています。高耐久超低騒音舗装の優れた特長としては、従来の排水性舗装と同様に水はねやハイドロプレーニング現象を抑制する「排水性」、路面とタイヤの接触部から発生する騒音を従来の低騒音舗装よりも7.8dB小さくする「超低騒音性」、その上を走行する車両の平均走行燃費を4.5%改善させる「低燃費性」、および骨材飛散抵抗性に優れ長期間の使用が可能となる「高耐久性」などが挙げられます。

従来の排水性舗装で課題となっていた、骨材飛散によるポットホール（穴ぼこ）の発生や、騒音や振動、タイヤの転がり抵抗の増加による車の燃費効率の低下といった諸問題の解決のために開発されました。

高耐久超低騒音舗装は、既に首都高速道路の約1/3で施工されており、今後もトンネル部以外で積極的に採用される予定です。



小粒径ポーラスアスファルト混合物(5)



ポーラスアスファルト混合物(13)

4つの優れた機能



表彰状



表彰式

■ 中長期目標

項目	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
共同研究開発 上市件数*	1件	1件	1件	2件以上	10件以上	

* 2021年度以降に共同研究開発から上市された開発品の累計件数

社会とのコミュニケーション

社会貢献活動

ニチレキグループは公共工事に携わる企業の社会的責任として、全国に広がる多くの拠点で災害復旧活動をはじめとする社会課題の解決や、地域貢献活動に積極的に参画しています。

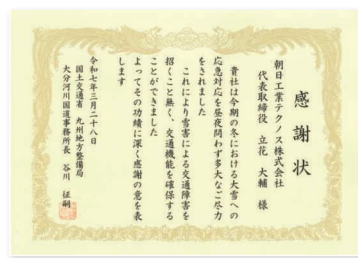
ニチレキ株式会社北陸支店

2024年1月の能登半島地震発災後、「能登空港緊急工事」においてアスファルト乳剤散布に従事。北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所より感謝状を拝受



朝日工業テクノス株式会社

2025年2月～3月の大雪に際し、グレーダーによる除雪作業などで道路交通の確保に貢献。九州地方整備局大分河川国道事務所より感謝状を拝受



近畿ニチレキ工事株式会社

兵庫県新温泉土木事務所主催の土木工事見学会において、高校生に向け歩道のカラー舗装施工体験を実施



埼玉ニチレキ株式会社

埼玉県「彩の国ロードサポート」活動団体として、一般国道砂原大桑線の歩道清掃活動を年2回実施



福島ニチレキ株式会社

福島県郡山市と「ネーミングライツ・スポンサー」契約を締結。小原田歩道橋に「福島ニチレキ小原田歩道橋」と命名



ニチレキ株式会社東関東支店

茨城県つくばみらい市の福岡工業団地協議会の一員として、「みらいマラソン」の開催に協力



つくばビッグシッププロジェクトの進捗

茨城県つくばみらい市における環境配慮型の新たな生産・物流基地「つくばビッグシップ」について、製造設備に係る半導体不足や資材の調達難等により建設を延期しておりましたが、2024年5月に着工しました。

2026年度上期までに事務所棟や工場建屋等を竣工、2027年度中の新工場の稼働開始を目指し、現在建設中です。総投資額は約300億円を見込んでいます。

完成後は、環境配慮型製品をはじめとする次世代ニーズに対応した高付加価値製品の製造、全国の物流のコントロール、および首都圏の工事センター等の機能を担うことで、インフラ老朽化やカーボンニュートラルへの対応をさらに加速させていきます。特に製造や物流管理においてはDXを活用することでさらなる効率化を図ります。



完成イメージ図

つくばビッグシップの投資効果

項目	内 容	主な効果
生産能力の向上	高性能アスファルト乳剤、高性能改質アスファルト等、舗装材料の製造能力の増強	・売上高の向上
	需要変動や短納期要請への即応体制の構築	
	DXを活用した製造の効率化による、投入リソース（人員・工数・エネルギーなど）の最適化・削減	・製造原価の低減
高付加価値製品の製造	環境配慮、長寿命、耐震などをキーワードとした新たな高付加価値製品の開発・販売	・売上高の向上 ・粗利の向上
	最新鋭の設備を利用した高付加価値製品の製造による大型の高収益事業への参入および既存市場への高付加価値製品の販売拡大	
	最新技術を用いた生産活動のリアルタイム把握や集中モニタリング等による、品質管理の精度向上	
物流管理の効率化	受注から運送用車両の点検、運行状況確認等をDXを活用して一元管理することによる物流の効率化およびコストの削減	・製造原価・販管費の低減
環境に配慮した生産・物流の実現	自然エネルギー、再生可能エネルギー等の利用による先進的な環境対応の実現、CO ₂ 排出量の削減	・エネルギー関連コストの削減 ・運転資金の低減 （キャッシュ・フローの増加）
	物流の効率化による棚卸資産の減少	
BCP機能の強化	生産のメイン拠点の分散	・事業リスクの低減
	首都圏近接かつ災害に強いつくばみらい市の北部団地（高台）に建設することによる被災リスクの低減	
首都圏の「工事センター機能」	車両・機材のデータを一元管理し、メンテナンスと稼働効率の最適化を図る基地機能を併設することによる、首都圏における事業拡大・基盤強化	・売上高の向上 ・製造原価・販管費の低減

第46回 2025日本BtoB広告賞 新聞広告の部「金賞」を受賞

2024年7月30日、8月7日の2週にわたり日本経済新聞(朝刊)に掲載したシリーズ広告が、第46回 2025日本BtoB広告賞 新聞広告の部「金賞」を受賞しました。「金賞」は全15部門のそれぞれにおいて最上位の賞です。当社が「日本BtoB 広告賞」を受賞するのは、2022年、2023年に続き3回目となります。

本広告では、舗装の適切な予防保全や長寿命化を通じ故郷や人々を守るニチレキの製品・工法を紹介しました。ふるさと風景とそこに暮らす元気なお年寄りのビジュアルにより、明るく健康なイメージを表現し、それを健全な舗装の重要性和リンクさせました。

賞の審査委員長からは8月7日の掲載広告に関し、『「震災に負けたくないまじさ。」のコピーと、たくましく生きてこられたアクティブ・シニアの男性のビジュアルの重なりが説得性を高めている」との評価を受けました。



2024年7月30日掲載広告



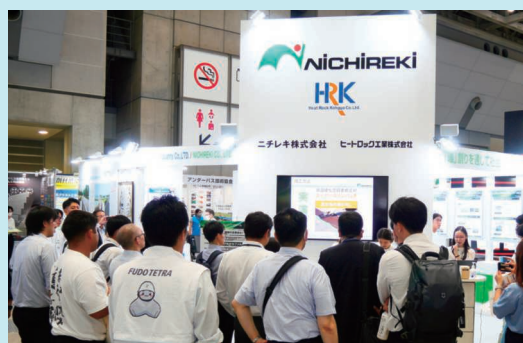
2024年8月7日掲載広告

「ハイウェイテクノフェア2024」および「社会インフラテック2024」への出展

2024年9月26日、27日に東京ビッグサイトにて開催された公益財団法人高速道路調査会主催の「ハイウェイテクノフェア2024」に、当社とグループ会社のヒートロック工業が共同で出展しました。

高速道路、橋梁の長寿命化に寄与する製品・工法、点検DXシステムをメインに、ニチレキグループの最新技術情報を紹介しました。特に「スーパーシナヤカファルト」▶P.34と「スーパーロメンパッチ」▶P.40の実演を交えたプレゼンテーションは注目を集めました。

また、2024年12月4～6日に東京ビッグサイトにて開催された、インフラメンテナンス国民会議、日本経済新聞社、日経BP主催の「社会インフラテック2024」に出展いたしました。社会インフラの老朽化対策・維持管理をSDGs視点で捉えた展示会で、「GLOCAL-EYEZ」▶P.43をはじめとした点検DXシステムを紹介しました。



ハイウェイテクノフェア2024



社会インフラテック2024

インド高速鉄道プロジェクトへの参画

近年めざましい経済発展を遂げ、鉄道や道路など交通インフラ整備の需要が高まるインドにおいて、高速鉄道プロジェクトに参画します。

本プロジェクトは2009年に7路線が発表、2015年の日印首脳会談において「日本の新幹線方式の採用」が合意されました。その第1弾としてムンバイ～アーメダバード間(508km)の整備が現在進められています。

当社は2025年3月6日に、長年インドで事業を展開する化学系専門商社であるオー・ジー株式会社と合併契約を締結し、同年4月19日、インド国グジャラート州バドダラに合弁会社(NICHIREKI OG INTERNATIONAL Private Limited)を設立しました。今後は、新幹線軌道の緩衝材料(スラブ軌道CAモルタル用アスファルト乳剤)の製造・販売・コンサルティングを通じ、当社のインドにおける事業基盤を築くとともに、インドの交通インフラ整備に貢献していきます。



計画路線図



施工状況

スポンサー活動(宇都宮ブレックス)



栃木県下野市に小山総合工場や技術研究所を構える当社グループは、2022年7月より地域貢献活動の一環として、男子プロバスケットボールリーグB.LEAGUE所属の「宇都宮ブレックス」へのオフィシャルスポンサー活動を実施しています。

2024-25シーズンの宇都宮ブレックスは、国内の年間優勝チームを争う「リソナグループ B.LEAGUE CHAMPIONSHIP 2024-25」にてリーグ最多となる3回目の優勝を飾りました。また、アジアNo.1を決める「バスケットボール チャンピオンズリーグ アジア(BCL Asia) 2025」にて初優勝を収め、各大陸王者が競い合う「FIBAインターコンチネンタルカップ」(2025年9月にシンガポールで開催)の出場権を獲得しました。



B.LEAGUE CHAMPIONSHIP 2024-25 優勝



BCL Asia 2025 優勝